



第3回 高齢者医療研究会

地域医療との連携を通しての看取り介護

芦原メロン苑
浜岸 佐代子



事例紹介

94歳 女性 要介護5

平成12年7月より入所

主病名 脳梗塞後遺症(左麻痺)

完全房室ブロック

慢性心不全

【本人家族の意向】

入所時より積極的な治療は希望せず、自然に任せて、穏やかな余生を送りたい。

最後は施設で迎えたい(迎えさせたい)



経過

- 本人・家族の意向を踏まえながら入退院を繰り返しながら苑生活を継続
- H21年9月～全身機能低下、心不全重症化終末期の診断
本人の意思「最後は施設で迎えたい」
- 家族「長男の家族が末期癌となり同時期2名の看取りは困難とのことで入院を希望」
- 9月22日 入院

経過2

- 入院中も「メロン苑に帰りたい」
- 家族、親族相談の結果
「メロン苑での看取り介護を希望」
- 入院病棟と相談
11月10日 メロン苑に退院
- 退院後、家族合同カンファレンス開催
本人・家族の意思確認
- 嘱託医、苑職員同意の上
「看取り介護同意書」を取り交わし
- 11月22日 家族、職員に囲まれて穏やかな最後を迎えらる



施設での取り組み

- 慣れ親しんだ苑での最後を過ごすための環境整備
- 個別食など利用者の意向に沿うケアの実践
- 孤独にならないよう、全職員による訪室、声かけ
- 家族ケア・・・家族負担軽減、家族と共に看取るケアの提供、コミュニケーションの充実
- 家族、職員の不安軽減のための情報交換
- 嘱託医協力のもと緩和ケアを中心としたカンファレンスとケアの提供



残された課題

- 意思疎通困難な利用者の事前の意思確認ができにくい。家族の意向をどこまで尊重するか判断に困る
- 「自然に任せた看取り介護」を主としているが、状況判断が困難
- 施設での看取り希望の方が症状悪化に伴い入院されたが、再度「苑での看取り」を希望された場合など随時対応して行けるのか、また、受け入れる場合職員の負担が大きい